

大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会での展示ブース出展報告

サイバーメディアセンター／情報推進部

大学 ICT 推進協議会(AXIES: Academic eXchange for Information Environment and Strategy) は、高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与することを目的とし、2011 年度に設立された協議会である。本協議会には、2013 年12月時点で、国内 67 の国公立大学が会員とし、また、38 の企業が賛助会員として参画している。

本協議会では、会員相互の情報交換の場として、年次大会を年に一度開催することとしており、2013 年度は 12 月 18 日(水)～12 月 20 日(金)を会期とし、幕張メッセ(千葉市)にて開催された。今年度からは、昨年度まで開かれていた全国情報基盤センターを中心とした連合発表会が本年次大会と合流して実施された。通常、年次大会は、企画セッション、一般セッション、出展者セミナー、展示のカテゴリから構成される。大阪大学サイバーメディアセンターは、2013 年度の年次大会に対しても、出展者セミナーを除くすべてのカテゴリで活動実績を残しており、企画セッション 1 件企画、2 件発表、一般セッション 3 件発表(ポスター発表 1 件含む)、展示ブースの出展で貢献している。

本報告書では、そのうち、前年度に引き続き、大阪大学サイバーメディアセンターとして出展した 2013 年度の展示ブースでの取り組みについて報告する。なお、Web 上のページ、AXIES への取り組み <http://axies.ime.cmc.osaka-u.ac.jp/> にも過去の発表を含む関連情報を掲載している。

1. はじめに

2013 年度の出展では、主に大阪大学サイバーメディアセンターより教員 4 名、情報推進機構より教員 1 名、情報推進部より事務職員 6 名の総勢 11 名の体制で 3 日間の展示活動に取り組んだ。

2. 展示内容

展示活動としては、主として下記のタイトルでのポスターを掲載し、ポスターをベースとした広報資料を配布することで、本センターおよび情報推進部を中心として展開中の教育研究環境の高度化・発展に資する活動を報告・紹介した。

(0) 大阪大学サイバーメディアセンターの主な活動内容

- (1) VDI と BYOD に対応した次期情報教育システムの概要
 - (2) タブレット端末による動作を想定した e-Learning システム用外国語辞書の開発
 - (3) 大阪大学キャンパスネットワークの運用状況と今後の展望
 - (4) 阪大クラウドによる IaaS、SaaS の提供
 - (5) サイバーメディアセンターの可視化サービス
 - (6) 大規模計算機ユーザ管理システムの改善と運用
- 以下、これらの内容について概説する。

(1) VDI と BYOD に対応した次期情報教育システムの概要

2014 年 9 月に、前身の情報処理教育センター以来 7 度目の更新予定の教育用電子計算機システム(情報教育システム)の紹介を行った。次期システムは、仮想デスクトップ環境(VDI)を利用し、持ち込み端末に対応(BYOD 対応)することで、メンテナンスコストの削減とユーザの利便性の向上を両立することを目指している。

(2) タブレット端末による動作を想定した e-Learning システム用外国語辞書の開発

Learning Management System である言語学習支援システム Web4u には、外国語教員との連携により独自の Web 辞書をモジュールの一つとして搭載している。本ポスターでは、Web4u の辞書機能を iPad に移植し、タブレット端末で使用可能な機能とインタフェースを搭載したアプリ

について報告した。

(3) 大阪大学キャンパスネットワークの運用状況と今後の展望

大阪大学総合情報通信システム (Osaka Daigaku Information Network System: ODINS)では、学内の教育活動を支える ICT 基盤として構築が進められてきた。運用規模の拡大や利用者から頂く要望への対応に伴い、業務負担も増している。本ポスターでは、ODINS が行っている運用戦略による業務負担の軽減と、今後の運用に関する展望を紹介した。

(4) 阪大クラウドによる IaaS、SaaS の提供

2009 年度に構築した仮想化基盤上で、計算機リソースを柔軟に変更可能な仮想サーバホスティングサービスを提供している。また、この環境上でスケールアウト可能な電子メールサービスを構築し、学内利用者向けに提供をしてい

る。この仮想化基盤の現状と次世代仮想化基盤の設計について報告した。

(5) サイバーメディアセンターの可視化サービス

サイバーメディアセンターでは、2014 年 4 月より可視化サービスを開始する。本ポスターでは、本センターが 2013 年度に導入予定の可視化システムの紹介とともに、可視化サービスの概要について紹介した。

(<http://vis.cmc.osaka-u.ac.jp/>)

(6) 大規模計算機ユーザ管理システムの改善と運用

大阪大学サイバーメディアセンターは、スーパーコンピュータ SX-9 を中核とした計算機利用サービスを展開している。本サービスにおいては、年間約 800 ユーザの申請受付、利用負担金請求等の管理作業が必要となり、その作業負担の増加が運用上の課題となっているため、2012 年 10 月にシステムの改善を行った。

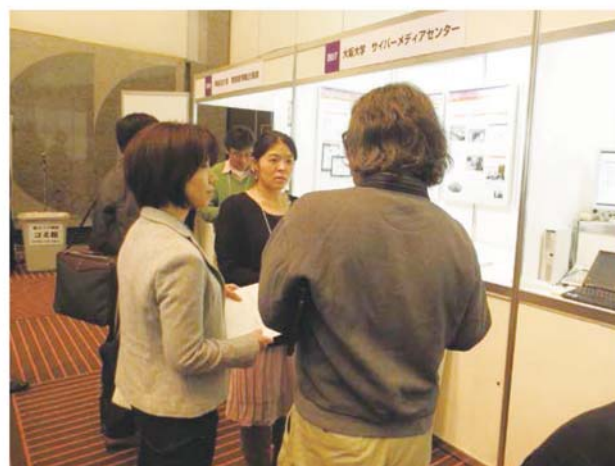


図 1: 大学 ICT 推進協議会 年次大会 2013 で本センターの取り組みを報告・紹介する教職員ら

3. 展示の状況

大会事務局より、会議全体の参加者は、登録した参加者が約 600 名、出展機関関係者が約 300 名、合計約 900 名と報告があった。今年度は、本センターの展示ブース位置が入口から非常に遠く、ブース近くまで来られる人数自体が少なかった。配布した資料部数から、本センターブースに来られた方は 150 名程度と推察している。しかしながら、立ち寄っていただいた方には熱心に説明を聞いていただき、ときには数十分も質疑、議論を交わすといった、深い情報交換ができた。

担当の教職員からは次のような意見があった。

- ✓ 我々の展示は、情報基盤の構築や運用、教育支援、研究支援、教育の実践など、大学の情報通信技術の利活用に関わる内容を幅広く網羅していた。このため、立ち止まってもらえさえすれば、どのような来訪者であっても関心を持ってもらえるテーマが必ず見つかり、活発な意見交換ができた。サイバーメディアセンターの活動が極めて活発で、多岐に渡っていることを再認識した。
- ✓ ブースに訪問される方の多くは、特に情報推進部のキャンパスクラウドや ODINS といった情報基盤に関する展示に対して興味や関心を示していたように思う。
- ✓ 情報教育、情報基盤に関心の有る方からも、サイバーメディアセンターの可視化サービスに関する問い合わせが多数あった。
- ✓ ネットワークインフラに関する発表や展示が少なく感じた。しかしながら、ODINS に関する論文の口頭発表や展示対応を通じて、大学におけるネットワーク運用に関心を持つ方々が確実に存在することが実感できた。展示を含め、事前のアウトリーチ活動を積極的に行い、注目度をあげたい。
- ✓ コンテンツとしては質が高いものを用意しているにもかかわらず、足を止めるきっかけが殆ど無いことから、今後は展示に関する工夫や展示前の注目度向上の検討を行っていければと考える。

- ✓ 展示ブース要員として参加させていただいたのは今回が初めてで大変勉強になった。
- ✓ 担当以外の説明に苦労した（勉強不足を感じた）。

4. おわりに

大阪大学サイバーメディアセンターとしては、大学 ICT 推進協議会の年次大会に、2 回目の展示を行った。本センターでは、国際的なアウトリーチ活動として 2000 年度より毎年 11 月に米国で開催される国際会議・展示会 SC において研究ブースを出展しており、国内においては本展示が重要なアウトリーチ活動の場であると考え。今後もこの年次大会を利用し、成果報告、情報交換を行い、本センターの活動を十分に広めていくとともに、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与していきたいと考えている。来年度は、12 月 10 日から 12 日まで仙台で開催される予定である。

(馬場 健一, 中島 重雄)